



# 神奈川県東ロータリークラブ

## KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2012-2013年度 R I 会長 田中 作次



第2590地区 ガバナー  
露木 雄二

- 会長 飯田 泰之
- 会長エレクト 伊東 英紀
- 副会長 山田 正憲
- 副会長 吉田 隆男
- 幹事 西山 潔
- 副幹事 山本 芳弘
- 会計 朝日 達夫
- 副会計 金森 欣一
- S A A 横溝 亘
- 副 S A A 矢野 修二
- 副 S A A 河野 明光
- クラブ会報 森 永 健

●クラブテーマ「調和・Balance」●



写真提供 小池将夫会員

**事務局** ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3  
TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555  
**例会日** 毎週金曜日 0 : 30 ~ 1 : 30 PM (第5金曜日 6 : 00 PM)  
**例会場** ホテルキャメロットジャパン **創立記念日** 昭和 51 年 5 月 29 日  
**URL** <http://www.kanagawahigashi.com/>  
**E-mail** kerc@beach.ocn.ne.jp

2012-2013年度 **第38週報 No. 1785** 2013年(平成25年) 4月19日 第1785回例会記録 4月26日発行

**司会** 山本 芳弘 副幹事

**会長報告** 飯田 泰之 会長

**点鐘** 飯田 泰之 会長

**斉唱** 「それでこそロータリー」

- ・《訃報》  
田中龍太郎会員のご尊父様が4月16日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
- ・4月度定例理事会報告
- ・地区より2015-16年度のガバナーノミニ告知が来ております。当地区指名委員会は、2015-16年度ガバナーノミニ候補者として箕田敏彦(みのだとしひこ)氏(横浜R.C)を指名することに決定したとのことです。
- ・いのちの電話よりお礼状が届きましたのでご報告します。

**四つのテスト** 長井 章 職業奉仕委員長  
(第1例会のみ)

**幹事報告** 西山 潔 幹事

- ・2520 地区山田ロータリークラブより、東日本大震災被災地、岩手県山田町の児童生徒たちによる『やまだの作文』第 41 集が届きましたので回覧します。

**ゲスト紹介** 的川 泰宣 様 (ゲストスピーカー)

本日〈4月26日〉のプログラム

- ◆ 斉唱 「手に手つないで」
- ◆ 献立 車海老のカレー
- ◆ 卓話 「“開高 健”の釣りの世界」

小池 将夫 会員

**結婚記念日祝** 高瀬 伸一 会員 (4月18日)  
田邊 正彦 会員 (4月23日)

## 委員会報告

国際奉仕委員会 委員長 白鳥 厚夫

1. 「ルーヤンR. C日本訪問」資料の回覧
2. 「小幡理沙3月月例報告」の回覧（4頁掲載）
3. 「会員名簿」を回覧。ホームページへの掲載については次回理事会にて検討後、アンケート形式で会員の意見をお伺い致します。
4. 4月26日台北滬尾R. C創立7周年記念出席の件  
西山幹事、田邊さん、吉田さん、須永さん、白鳥が出席予定です。

## スマイルボックス 矢野 修二 副SAA

田邊正彦君 結婚祝い、ありがとうございます。

飯田泰之君 ゲストスピーカー的川泰宣様、本日の卓話、楽しみにしております。

山本 登君 間に合いませんでした。

江森国一君 田中龍太郎会員のご尊父様のご冥福を心よりお祈り致します。

伊東英紀君 的川先生、本日の卓話、楽しみにしています。

伊澤政宏君 ①田中龍太郎様のご尊父様のご冥福をお祈り致します。②通夜ご参加の皆様、ご苦労様でした。

山田正憲君 的川様、本日のお話、楽しみにしています。

天野公史君 夫婦共々お世話になりました。

小山市康君 的川泰宣様、ようこそいらっしゃいました。宇宙に関すること、大変興味があります。よろしく願います。

中野真理さん 今日、どうにもならなくて早退させて頂きます。ごめんなさい！！

横溝 亘君 的川様、本日の卓話、楽しみにしておりました。楽しいお話、願います。

矢野修二君 ①田中会員のご尊父様のご冥福をお祈り申し上げます。②的川様、本日、楽しみにしています。

|       |     |            |
|-------|-----|------------|
| 4月19日 | 12件 | 26,000円    |
| 本年度累計 |     | 1,758,000円 |

## 出席報告

竹山 洋 出席委員長

|       |        |          |        |
|-------|--------|----------|--------|
| 会員総数  | 54名    | (37+17)名 |        |
| 出席会員数 | 43名    | (30+13)名 |        |
| 出席率   | 86.00% |          |        |
| ゲスト   | 1名     | ビジター     | 0名     |
| 前回補正後 | 92.31% | 前々回補正後   | 92.16% |

## 卓話

### 「子どもと未来をつなぐ宇宙」

宇宙航空開発機構 名誉教授 的川 泰宣 様  
(紹介者 飯田 泰之 会員)



「三つ子の魂百まで」と言いますが、幼い頃の遊びがどのように知的な好奇心やモノづくりの心に育っていくか。その過渡的な年齢の時代の過ごし方が、その子どもの一生に決定的とも言える影響を及ぼします。

私は小学生の頃に、昼も夜も釣りを楽しんでいました。昼の釣りからは、「海の水の色が青いのにバケツに汲んだらなぜ透明になるのだろう？」など、他の遊びと同様に好奇心の芽生えを得ました。夜の釣りからは、遠い星に分け入っていくという冒険心が沸き立つ瞬間を経験しました。ペンシル、スプートニク、エクスポローラー、ガガーリンなど私が育つプロセスで出会った多くの事件からは、モノづくりがなければ好奇心も冒険心も実現しないという確信を得ました。

現在、「宇宙教育」という、宇宙や宇宙活動を素材として子どもたちと未来をつなぐ「宇宙の学校」という親子教室を開催しています。これは年数回のスクーリングと家庭における日常的学習とからなっており、網走から那覇まで全国で50ヵ所を超えて実施しているものです。地域が地域の子どもたちを責任をもって育てるということは、地域・家庭・学校が互いに支え合う循環を作り出す上で非常に大切なことです。ここ東神奈川でもぜひ実施して頂ければと思います。

子どもたちが最近関心を寄せている宇宙ミッションに「はやぶさ」があります。話せば長いこととなりますが、一番みなさんの印象に残っているのは、2010年6月にオーストラリア上空に戻って来た時のシーンでしょう。数々の困難を乗り越えてきたチームの粘りと知恵もさることながら、私には、最終的にここまでの道程を可能にした日本のモノづくりの素晴らしさを強調したいと思っております。機会があればその辺の事情もしっかりとお話しする機会があればと思います。

本日は有難うございました。

## 第4・第5グループIM 被災地支援報告

【発表者 神奈川東ロータリークラブ 加藤 仁昭】

みなさん、こんにちは。神奈川東の加藤でございます。それでは、ただいまから我クラブの支援についてご報告致します。あの時、2011年3月11日、その夜、私どもは姉妹クラブであります台北滬尾ロータリークラブの歓迎会のためにインターコンチネンタルホテルを予約しておりました。前日から彼らメンバーは来日して楽しみにしていたのですが、当然みなとみらい地区は津波警報のために入れなくなり、歓迎会も中止となりました。彼らはまだ滞在するはずだったのですが、あの大混乱で急遽、次の日には帰らなければいけないということで、地震の夜の慰労と次の日の飛行機の手配のためにクラブの有志が色々頑張って飛行機のチケットも取れ、何とか翌日には無事に帰国して頂くことが出来ました。それから一カ月後、台北滬尾ロータリークラブから我クラブに義援金116万5000円が届けられました。

そして、クラブとしての支援になりますが、震災5日後の3月16日、クラブのメンバー2名、お二人とも消防団の役員で活躍されている方ですが、仙台の救援本部に52万円相当の消毒薬とマスクを雪が降る中を10時間かけて届けることが出来ました。その後、二カ月経った5月17日、メンバーの親戚で仙台市若林区に避難している方がいて、その人の要望により若林区の避難所へタオルケット320枚、50万円相当を、やはり別の会員が個人的にトラックを寄贈するというのでそのトラックに載せてタオルケットを届けました。

新たな2011-12年度になり、どういう形で支援していくかということで基本方針として支援する相手の顔が見えることと、二つ目として現地のロータリークラブを通すという方針に基づき、宮城県の七ヶ浜ロータリークラブを通して支援することを決定致しました。

七ヶ浜町は仙台の隣の多賀城の隣にある町ですが、非常に小さい半島のようになっているところで、湾の向かいは松島ということで地図でいうと下に当たるところです。七ヶ浜町の被災状況は、人口2万231名のうち、死者・行方不明者107名、被災家屋3740戸、仮設住宅入居618世帯となっています。この町の三割以上が津波でやられてしまいました。

七ヶ浜ロータリークラブのメンバーは約20名おられ、彼らメンバーの被害状況については、初代の会長が残念ながら亡くなられて、自宅と事務所が全壊の方が5名、半壊の方が4名、一部損傷が11名で、今年度の会長は渡邊さんという方ですが、その人も津波に流されたけれども何とか助かったということです。また、震災後の過労で3名が入院されて、いずれにしてもこういう悲惨で大変な状況なのでロータリーも解散しようかという話まで出たそうですが、何とか7月になって初めて例会が開けたそうです。

そして、9月17日、私をはじめ6名で七ヶ浜の現地を、向こうの会長に案内して頂いて視察しました。その中で向こうからいくつか要望が出たのですが、一つは津波で消防車も流されてしまったので消防車に積んであった投光機付きバルーンが欲しいということと、

仮設住宅の掲示板が欲しいということでした。

10月7日は、毎年、私どもは神奈川区民まつりにおいてメンバーが品物を持ち寄ってチャリティー募金を行っていて、従来はスリランカの井戸掘り資金に充てていたのですが、今回は被災地支援のために七ヶ浜の海産物を向こうから送って頂き、併せて販売致しました。後ろにあるピンクの旗は私どもクラブの旗ですが、その隣にある白い旗が七ヶ浜ロータリークラブのクラブ旗です。募金総額52万円を集めることが出来ました。このチャリティー募金や台湾からの義援金、そしてクラブ社会奉仕予算を併せて、被災地の要望である発電機付き投光バルーン3基と仮設住宅用掲示板10基（金額にして2,363,200円）を支援することが出来ました。また被災地の惨状を見て来て、もっと何か他にも出来る方法はと考へ、「ふるさと納税制度」を使った支援を会員全員に呼び掛けたところ、3,370,000円という大きな金額も併せて七ヶ浜町へ送ることが出来ました。

翌年の3月には、ふるさと納税と支援の品物の贈呈式を兼ねて七ヶ浜に行つてまいりました。真中が私ですが、右側の方が七ヶ浜の渡邊町長で、左の方は七ヶ浜ロータリークラブの山崎会長です。そして、私どもが七ヶ浜の贈呈式にメンバー12名で行つたのですが、前日に松島に宿泊しまして、七ヶ浜のメンバーも14名とほとんどの方に来て頂きまして、大広間で互いに浴衣姿の非常にリラックスした形で交流を行うことが出来ました。

そして、4月には台北滬尾ロータリークラブの周年祝賀会へ、我クラブのメンバー20名が訪し、先の多額の義援金の使途と御礼を直接報告することが出来ました。

2012-13年度に入り、七ヶ浜の継続支援ということで、先ほど言いました区民まつりのチャリティー募金で集まったお金と今年度の社会奉仕の予算の合計で50万円を、七ヶ浜ロータリークラブが今年20周年ということで、記念の慰霊碑を作るための資金が足りないということなので、それを寄贈させて頂くと同時に、前年同様に実施したふるさと納税を継続して111万円を七ヶ浜町に送ることが出来ました。そして、先月、2月23日には七ヶ浜ロータリークラブの20周年祝賀会がありまして、私ども神奈川東をはじめ七ヶ浜ロータリークラブを支援した5クラブ、私どものほか茨城古賀、古賀東、町田サルビア、富山シティの5クラブをご招待頂き、2520地区の小野寺ガバナー、そして七ヶ浜町長をはじめ皆さんから支援への感謝の言葉を頂きました。

最後にまとめとして、私どもが震災支援として2年間やってきたことはこんなことで言い表せるのではないかと思います。一つは、相手の顔が見える支援が出来たこと。二つ目は支援相手である七ヶ浜ロータリークラブとの交流が本当に良く出来たこと。そして姉妹クラブからの義援金に対して、直接訪問して御礼報告も出来たこと。また、チャリティーバザーにおいて、募金を集めてそれを被災地に届けるという汗をかいた支援も出来たこと。そして最後にメンバー個人の負担はそれほど大きくないふるさと納税が実施できたことであります。

いずれにしても、復興には今後まだ長くかかると思いますが、私どもも現地ロータリークラブと一緒に今後とも継続支援をしていきたいと思ひます。ご静聴どうもありがとうございました。



## Monthly Report / March 2013

Lisa OBATA/USA

インディアナでは未だに寒い日が続いています。皆さんいかがお過ごしでしょうか。日本での卒業シーズンが終わっても、私の高校生活はいまだ続いています。

授業内容はというと、先月とテーマが変わっただけで流れは同じです。少し退屈でもあります。最近の本を読むのに慣れて来て、先生の補助無しで大体読めるようになりました。1000ページを超える長編を渡されるとヴっつときますが、4・50なら楽しいものだなと思います。

3月はホストファミリーが変わっているいろいろと慌ただしく過ごしていたのですが、今頃になってやっと落ち着いてきました。今度のホストファミリーはおじいちゃん一つ下の妹の2人で、家は今まで住んでいた街中の反対側にある農業地帯に位置しています。車が2台、トラックが1台、キャンピングカーが1台、庭には大きな人口池とおじいちゃんが趣味で作った畑が5つあります。まさにアメリカンカンントリーなイメージで数キロ先にマックがあるのが想像付きません。夜中には満天の星空を見る事ができます。部屋は少し小さくなりベッドもだいぶ小さくなりましたが、とても気さくな家族に囲まれて、楽しい日々を過ごしています。

3月のビッグイベントは（おじいちゃんと妹とおじいちゃんの友達と4人で）月末に行ったコスタリカ旅行でした。カリブ海と太平洋に挟まれた夏の国、フルーツがおいしくて人々が優しい素敵な所でした。主要言語がスペイン語で、英語を話せる人が比較的に少ないため、私の拙いスペイン語を披露することになりました。片手にはもちろん電子辞書です。大学に入ったら中国語とスペイン語の勉強をちゃんとしようと思います。妹が、スペイン語・フランス語（ちょっと日本語）を話せるためあまり苦労はしませんでした。・・・ところどころ、”ああこの人達アメリカ人なんだなあ”とでもいうのでしょうか、国民性の違いって本当にあるよなあと感じる部分が多々ありました。例えば現地の人との会話、相手が英語を話せないとわかると私は辞書を取り出して指差し身振り手振りで話そうとするのですが、そこはおじいちゃん、英語の分からない相手に英語をゆっくり何度も繰り返し言って押し通します。理解できなくて困っている相手の方には申し訳無かったのですが、一瞬吹き笑いしそうになってしまいました。

公共交通機関はバスしかないので現地でレンタカーを借りて火山を登ったり珈琲栽培の見学に出かけたりしました。旅中大きなトラブルは特に無かったのですが、帰りのアメリカ入国時に別室に隔離されたということがありました。

入国時にはパスポートとJ-1ビザだけでいいと前もって団体から指示されていたため、その他の書類を持ち歩いていませんでした。しかし、入国審査官によると、その他の書類も必要だったそうで、“何も問題は無いけど上司の許可が一応必要なんだ”と気さくに別室に送られたのですが、別室では違法入国と同じ扱いだったため監視官の目はきつく、（違法入国者の多いアメリカであるため厳しくしなければならないのは分かりますが）外で待っていた妹までも怒鳴るように大声で注意されて、少し腹が立ちました。ただ、この経験で一つ嬉しかったことは上司の人に呼び出された時に物怖じせず面と向かって自分の立場と状況を説明できたことです。留学生活の中でこういった相手に本当に抑え付けるように話しかけられるという経験はほとんどありません。そういった状況の中、はっきりと相手の目を見て、自分の思っていることを素直に述べ、相手に理解してもらえたというのは、自分の中でとても大きな進歩だなと思いました。

一週間という短い間でしたが貴重な経験をさせていただきました。

帰国日について思案する日々が続いています。早くに決めて、これからの自分の方針を定めていきたいと思います。

皆様もお身体には十分気をつけてお過ごしください。

## 2013-14年度 理事・役員・委員長会議開催

4月23日（火）、ホテルキャメロットジャパンに於いて、次年度理事・役員・委員長会議が開催され、伊東会長エレクトより次年度のテーマ、方針等について説明がありました。



◎次週5月3日は祝日休会

次回《5月10日》の卓話予定

テーマ「ブラジルにおける日系人と韓人の食文化、  
そしてロータリークラブ」

ロータリー米山奨学生 李 徳雨 様